

エム・ケー/区画整理事業

海老名、9月にも許可

行政支援充実 三島は来春造成

物流施設などの不動産開発・販売を手掛けるエム・ケー（小林勤社長、東京都日野市）では、神奈川県海老名市と静岡県三島市で進める土地区画整理事業が順調に推移している。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）・海老名インターチェンジ（IC）を出てすぐ、海老名運動公園の隣で整備を進める「海老名Ⅱ」は、分譲面積が6万6千平

方弱となりそうだ。9月にも開発許可が下りる見通しで、小林社長は「非常に付加価値が高い用地。周辺でこれだけの規模の開発は、ほとんど最後になるのではないか」と話す。

2017年4月に造成に入ることであれば、17年末から18年4月にかけて顧客に引き渡せる予定。同社は海老名市など関東地方での開発実績が多く、行政と

連携してスムーズに事業を推進している。

三島市で進めているのは「三島市三ツ谷工業団地」で、東名道・沼津ICから車で12分程度。分譲面積は1万4600平方メートルで、現在3分の1程度が埋まっている。

行政による立地支援体制が充実しており、物流事業者の場合、用地取得では①1千平方メートル以上の用地取得

②対象施設に従業員10人以上が勤務③静岡県内全体で雇用が増加④物流総合効率化法に定める設備の設置——を全て満たせば、用地取得額の30%、3億円をそれぞれ上限に補助を受けることができる。

また、設備投資では①設備投資額10億円以上②静岡県内全体で雇用が増加③物

効法に定める設備の設置——を満たせば、設備投資額の7%、5億円を上限として補助を受けられる。

用地取得、設備投資双方で補助を受けることも可能だ。製造事業者に対しても同様の補助メニューを設けている。

7月上旬にも事業認可が下りる見通しで、10月に用

地造成工事が始まり、建築工事は18年8月ごろ着手できる予定だ。

柳瀬英男取締役営業部長は「三島市は事業継続計画（BCP）の面からも注目されている。近隣市町の人口は50万人おり、労働力の確保も容易だ」とアピールする。

（高橋朋宏）